

『異文化適応と自己形成を支える母文化・母語研修会』報告

日時：平成18年6月17日（土）

場所：山形市役所11階大会議室

1. 山形県における日本語を母語としない児童生徒の現状について

山形県教育庁義務教育課 指導主事 近内 孝哉氏

（最上地方で中学校教師11年の後、最上教育庁勤務を経て、現職）

- ① 平成16年度落ち込んだ日本語指導が必要な外国人児童生徒数は、平成17年度大きく増加した。
- ② その人数は、97人（小学校：57人、中学校40人）
- ③ 日本語指導を受けている外国出身児童生徒は、小学校43（75.4%）、中学校33（82.5%）。全国と比べると、小学校で指導を受けていない児童の割合が高い（全国は86.8%）。100%にならない理由は、児童生徒本人が、クラスを離れて行われる「取り出し教育」を希望しない場合があること、英語が堪能な生徒に関しては、英語でやり取りしながら授業を進めることができること等が挙げられる。
- ④ 本件では、小・中学校ともに「一人のみ在籍」の学校が多い（小学校65.7% 中学校71%）。*全国（47.1%）
- ⑤ 母語別児童生徒数：中国語を母語とする児童生徒が70%を超え、韓国朝鮮語を母語とする児童生徒と合わせると86.7%となる。*全国（ポルトガル語、中国語、スペイン語の3言語で全体の7割以上）
- ⑥ 対応と課題
 - 1) 日本語指導教員加配を小学校5校、中学校2校（計7名）に実施。配置先の各小中学校では、この教員を中心に、保護者と協力しながら、日本語指導や生活指導などを行っている。市町村教育委員会においても、指導協力員の派遣、指導員の配置、就学案内を含めた保護者向けのガイドブックの作成・配布、外国人児童生徒を持つ保護者の相談窓口設置など、受け入れ態勢を強化している。***一人一人にあった教材作り**
 - 2) 中国語・韓国朝鮮語を母語とする児童生徒への対応を充実させることが課題だが、地域による方言差も大きく、個別の対応が必要である。又、日本語指導者に対する内容・方法の整備、資質向上を図ることが重要である。独立行政法人教員研修センターで実施される「外国人児童生徒等日本語指導講習会」に、毎年1名の教員を派遣しているが、受講者を活用した取り組みを工夫する必要がある。
 - 3) 日本語指導のみならず、**社会的な自立に向けた集団内での指導**の充実も必要である。他の児童生徒や地域の人々との交流活動に積極的に参加させることなどを心がけてほしい。また、中高連携を図り、高等学校進学を希望する外国人生徒への対応を更に充実させる必要がある。***外国の子が生き生きする教育**
 - 4) 各関係機関・団体などと連携しながら、外国人児童生徒への教育についての意識を高め、教育環境を整備していく必要がある。

2. 韓国の教育事情と婚姻に対する人々の意識

仙台韓国教育院 院長 朴澤氏

2-1. 韓国の教育事情

(1) 学制は日本と同じ6・3・3・4制。高校は、政府実施の学力試験の後、学区別抽選。平準化教育を実施し、高校までは学校間のレベルの差はない。

(2) 大学試験は、現代の科挙といわれる受験戦争。(四当五落)

*大学試験日のソウル市内

官庁・会社の出勤時間を1時間遅らせる／地下鉄／バス配車間隔の調整など

(3) 両班意識が強い。(文人：東班 武人：西班)

近代化されてから、日本人は意識の上で平民になったが、韓国人は両班になった。

(実際には2割しかいなかったのに、韓国の9割の人が両班出身と答える)

(4) 教育観

教育の役割：現在の高度経済成長を支える原動力と評価

成績万能主義の批判

教師を見る目：

恩師として(恩師の日)

*ただし、今年は取りやめになった。恩師への付け届けが横行したため

スカートの風(お母さんパワー)：子どもの進学のためなら学校にかけ合っても・・・

他人に負けない子に育てる(韓国)

他人に迷惑をかけない(日本)

他人より出世してほしい(中国)

子どものしつけ(公共の場での礼儀)が緩い。しかし、あまり社会問題にならないのは、年上に対する敬意がブレーキになっていると思われる。

(5) 日本語学習環境

韓国の高校の第2外国語選択 日本語が3割(週1回の授業)

2-2. 韓国人の結婚観

(1) 韓国：式を挙げる 日本：籍を入れる

(2) 夫婦は一心同体 夫婦同士、朝のあいさつをしない。(年をとっても同じ布団でねるので、夜の間中ずっと一緒だから)

(3) 夫婦別姓

女性の立場を認めているわけではない。子どもが生まれると「〇〇ちゃんのお母さん」とよばれる。

(4) 財布を握るのは妻。両班は、お金の方を向いてはいけない。

(5) 離婚を見る目は冷たい。

(6) 韓国人は精神的に強さがあり、自殺を決してしない民族だと言われてきたが、最近
は子どもの自殺も増えている。

(7) 理想の男性像：優しさではなく、男らしさ、たくましさ（兵役：大学 2 年を終えて
から 2 年）

3. 中国の教育事情

神奈川県立ひばりヶ丘高等学校・弥生西高等学校

非常勤講師 肖紅氏

3-1. 高等教育

1976 年文革終結、1977 年大学受験制度を回復。

1980 年代、大学生の数はほとんどの 4 年生大学で在校生 5000 人未満であったが、現在
はどこも一万人大学を目指している。(20 数年前勤務した大学の在校生は、当時 4000 人
前後だったが、現在は 16, 000 人)

3-2. 学校での勉強時間割

小学校 7~8 時間 中学校 10~12 時間

(例) 月壇中学 (重点校)・・・生徒数 900 人、教員数 106 人、進学率 90%

日本語能力検定 2, 3 級合格者も多数いる。生徒は、みんな学校が楽しいといい、不登校
生はいない。日本からの留学生も一人いて、彼女に日本と中国の中学生の違いを聞いたと
ころ、「日本は豊かだが、危機感と責任感がうすい」と答えた。

(日課)

7 時~8 時 朝練 (英語・国語の朗読練習)

8 時~12 時 授業 (10 時 目の体操、ラジオ体操)

12 時 10 分~2 時 昼休み

2 時~6 時 授業 (中学) 高校は更に遅くまで授業

(教科時間配分数：一週間)

数学 7 物理 6 化学 6 英語 8 国語 8 政治 3 歴史 2 クラス会議 1

体育 2 自習 7 (模擬試験など)

3-3. 親が教育熱心な理由

① 先富論・・・トウショウヘイ「教育が人を救う」

② 一人っ子政策・・・望子成龍、光宗耀祖

③ 文革世代：親世代は、文革を経験しており、自分たちが机に向かって勉強できな
かった分、子どもに夢を懸けている。

3-4. 教師の日（9月10日）

手紙やカードを送る。先生は怖い存在。「厳師出高徒」優しすぎる教師は、無責任だと思ふ。教師の家庭訪問、親の学校への呼び出しは多い。教師は、子どもにたくさん宿題を出す、毎晩2時間くらいかけて、それをチェックしている。

3-5. 運動会・部活動

年一回。ただし、選手だけ競技し、他の生徒は応援。部活動はあるところもある。英語など進路と関係ある部が人気を集めている。

3-6. 質問

「日本の中学や高校に途中から来た子どもが、日本で無理に大学受験をしなくても中国で受ければよいのと思うことがあるが、それは無理か」

→自分の教え子で、そのようにして中国に帰って受験しようとした子がいたが、すぐに舞い戻ってきた。中国は、教える内容も多く、スピードを要求される。たとえば、200字の作文を20分で書くように要求される。日本の教育では追いつけない。留学であれば、第二言語大学のように、日本人がたくさんいる大学があるので、可能だと思ふ。

文責：秋武邦佳（IVY 外国人生活相談部門担当）